

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
麻生情報ビジネス専門学校 北九州校		平成8年3月4日		富田 博之		〒 802-0001 (住所) 福岡県北九州市小倉北区浅野2丁目11番33号 (電話) 093-533-1133				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人麻生塾		昭和26年3月12日		理事長 麻生 健		〒 820-0018 (住所) 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999				
分野	認定課程名		認定学科名		専任士認定年度	高度専任士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	文化教養専門課程		CGデザイン科		平成18(2006)年度	-	平成25(2013)年度			
学科の目的	クリエイティブ業界の業務に必要な知識と技術を身につけて将来業界人としてプロ意識を持ち活躍できるマインドを持つ人材を育成する。									
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)	主な教育内容: 商業デザインに必要な基本技術を習得し、実践的なデザイン制作ができる、業界の即戦力になれる人材を育成する。 取得可能な検定: 色彩検定2級、Photoshopクリエイター能力認定試験エキスパート、Illustratorクリエイター能力認定試験エキスパート									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			1,724 単位時間	236 単位時間	1,488 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
					単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率					
60人	52人	0人		0%	0%					
就職等の状況	■卒業生数(C)		24人							
	■就職希望者数(D)		18人							
	■就職者数(E)		18人							
	■地元就職者数(F)		14人							
	■就職率(E/D)		100%							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		78%							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		75%							
	■進学者数		1人							
	■その他									
	アルバイト1人、就職斡旋希望せず4人									
就職指導内容: 担任、就職担当職員により、キャリアデザイン、履歴書の作成、面接試験等についての指導、個別相談を行うとともに、保護者等への就職説明会を実施している。										
(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)										
■主な就職先、業界等		デザイン業界、クリエイティブ業界								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:				無					
	※有の場合、例えば以下について任意記載									
評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL						
当該学科のホームページURL	https://asoju.ac.jp/abkc/cg/									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)									
	総授業時数		1,724 単位時間							
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間								
うち企業等と連携した演習の授業時数		152 単位時間								
うち必修授業時数		1,724 単位時間								
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間								
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		152 単位時間								
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間								
	(B: 単位数による算定)									
	総単位数		0 単位							
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		単位								
うち企業等と連携した演習の単位数		単位								
うち必修単位数		単位								
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		単位								
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		単位								
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位								
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0人					
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		1人					
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人					
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		1人					
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人					
	計				2人					
	上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				2人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学生の主な就職先であるクリエイティブ業界、デザイン業界においては、顧客が求めるデザインが出来る人材、企画、提案も含めた総合力を持った人材が求められている。そのような人材を育てる教育課程を編成するには、企業等との連携が不可欠である。そのため、本校では、専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について、意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。また、業界で仕事をされている兼任教員や、学生の就職先企業の方との意見交換を随時行う。さらに、インターンシップ先に評価表を書いていただいたり、就職先企業に対しお客様アンケートを実施することにより、学生に不足する、あるいは必要とされる能力を把握する。これらのことによって得た結果も、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、専門性に関する動向や方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。委員会は、次の事項を審議し、会議の結果を学科内でのカリキュラム会議に報告する。

- ①カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- ②各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- ③教科書・教材の選定に関する事項
- ④その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

また、カリキュラム会議においては、教育課程編成委員会からの意見を参考に、学科の教育方針に則ったカリキュラムを検討し、策定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
橋垣 遥	北九州市産業経済局企業立地支援部 企業立地支援課情報人材支援担当係長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	①
宮原 寿光	株式会社RAID 代表取締役社長	令和5年10月1日～ 令和6年9月30日(1年)	③
上田 浩二	株式会社サークルオブフレンズ 代表取締役	令和5年10月1日～ 令和6年9月30日(1年)	③
白石 和行	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 教務部 リーダー	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	—
八波 康裕	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 教務部	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年6月14日(水) 17:50～19:00

第2回 令和5年11月15日(水) 16:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員より生成AIに関して、静止画だけでなく、動画制作も自動化されるなど業界での仕事の流れも変化しており、授業での課題制作でどこまでAIを利用可能とするのかについて学科として指針が必要なのではとのご意見をいただいた。

学科として発展途上の技術であり体系的にカリキュラムに組み込むことの難しさはあるが、一部の課題演習等の時間でAdobe Fireflyの解説を行うなど生成AIの技術について授業への導入を開始した。また、指針として制作物で生成AIを利用する際にはその旨を明記することをはじめとした運用ルールを学科として設定した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 企業へのヒアリング等を通して得られたデザイン業界で求められている人材像や新しい技術についての情報を元に、実践を通じた技術の習得が必要となる授業について企業との連携の下で実現する。企業から直接指導していただくことにより、業界が求める技術や知識の水準を実践的な演習の中で体験し、各自が努力すべき方向性と量を認識させる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 デザイン業界で求められている人材像、技術を知るところを目的とした科目となるよう、企業から派遣される講師と本校教員とが授業開始前に、授業内容や授業方法、評価方法などについて打ち合わせを実施し決定する。また、評価基準についても学生が現在の自己のレベルを把握できる内容となるよう企業講師と協議して設定する。企業講師には、実際の授業にも適宜入っていただき、学生に業界の求めるレベルを認識させるためにアドバイスを行っていただく。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
進級制作	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	1年次に習得したデザイン制作の基礎技術を活かし、一つのまとまった制作物として形にして完成させる。企業の方から個々にアドバイスをいただき、実践的かつ専門的な能力を身に付けるための端緒を理解させる。	ナカムラタツヤデザインルーム
卒業制作	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	2年までに学んだことの集大成とした作品制作を行う。1年次同様、企画の内容に重点を置くが、企業の方からアドバイスをいただき、より社会的なテーマや問題を取り上げ制作する。卒業制作Aでは企画書完成・制作・プレゼンまでを行う。	ナカムラタツヤデザインルーム

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 教職員に対して、現在就いている職務又は将来就くことが予想される、職務の遂行に必要な知識・技能を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的として研修を受講させる。「学校法人麻生塾 教職員研修規程」に則り、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。年度の初めに研修計画を作成し、各教職員のスキルに適した研修が、計画的に受講できるようにする。また必要に応じ、年初の計画以外の研修受講も可能としている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	WCCCウェビナー「クリエイティブ業界最前線2023編」	連携企業等:	株式会社ワコム
期間:	2023年6月20日(火) 17:00~18:30	対象:	教員 1名
内容	ゲーム・アニメ・CG などクリエイティブ市場の最新概況、および業界のワークフローに基づく技術トレンド、学生に求められるスキルなどに関する理解		
研修名:	生成AIとこれからの教育現場	連携企業等:	サーティファイ情報処理能力認定委員会
期間:	2023年9月29日(金) 17:00~18:30	対象:	教員 1名
内容	授業や課題制作に於いての生成AIの活用方法。現状と将来的な理解と認識を持つ。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	LGBTの理解	連携企業等:	NPO法人 カラフルチェンジラボ
期間:	2023年7月26日(水) 16:00~17:30	対象:	教員 2名
内容	LGBT 等の性的マイノリティについて理解するとともに、学生個々の価値観を大切にした指導・支援のあり方を学ぶ。		

(3) 研修等の計画	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
研修名:	AI時代のキャリアと組織をデザインする～新たな価値を提供し続けるには～ 連携企業等: エイクエント・エルエルシー
期間:	2024年7月3日(水) 12:00～13:00 対象: 教員 1名
内容:	AI時代にどうキャリアを積み、組織をデザインしていくのか、またその時代に求められるデザイナーのマインドセットやスキルについての現況と事例紹介。
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名:	Z世代のメンタルヘルス～自分としてイキるをサポートする 連携企業等: うえむらメンタルサポート診療所
期間:	2024年8月22日(木)14:00～15:30 対象: 教員 2名
内容:	デジタルネイティブの環境で育ったZ世代と呼ばれる彼らが社会に出てきたこの数年、社会不適應の様々な病態と発達障害の増加という変化が見られ、彼らの多くに自己肯定感の乏しさと不安の強さが見られる。研修ではこうした心理発達と社会適應について考える。
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1) 学校関係者評価の基本方針 本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者等、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。	
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育人人材像、他
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、人事・給与規程、業務効率化、他
(3) 教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、他
(4) 学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他
(5) 学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他
(6) 教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7) 学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8) 財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、他
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他
(11) 国際交流	留学生の受入れ、支援体制
※(10)及び(11)については任意記載。	
(3) 学校関係者評価結果の活用状況 委員より、新卒採用、インターンシップが今年に入ってさらに早期化しているため、就職指導時期の再検討が必要と思われるが、どのように実施、または実施予定なのかについての質問、ご指摘を頂いた。 指摘に基づき、CGデザイン科における就職活動用のツールとして必須となるポートフォリオ制作について短期間で集中的に制作する期間を設けるなどの取り組みを行い、就職活動時期の早期化への対応を行った。採用活動の開始時期については企業によって対応にバラつきも見られることから、今後も企業へのヒアリングなどを通じて適切な就職指導時期の検討を行っていく。	

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
谷川 陽一	福岡県立小倉商業高等学校 校長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	高等学校関係者
五十嵐 比奈子	ゲームクリエイタ科3年生の保護者	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	保護者等
佐伯 京子	地域住民代表	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	地域住民
川端 君佳	オフィスビジネス科令和2年度卒業生	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	卒業生
三宅 康夫	株式会社ラック 新規事業開発部地域創生事業室 九州電力事業開発グループマネージャー	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
森田 良一	バリエントソフト株式会社 代表取締役	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員
河上 和弘	株式会社ジーン 人事部 部長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
宮原 寿光	株式会社RAID 代表取締役社長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員
上田 浩二	株式会社サークル・オブ・フレンズ 代表取締役	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
伊藤 洋平	株式会社パソナYBS 特定法人営業課長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
木ノ下 五郎	社会医療法人北九州病院 北九州総合病院 事務部 次長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/abkc/2024/hyoka.pdf>
公表時期: 令和6年10月3日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念、教育目標、ASOの考え方、特色
(2) 各学科等の教育	入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、カリキュラム、資格実績、就職実績
(3) 教職員	教員一覧及び実務家教員科目
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、学園祭、部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6) 学生の生活支援	生活環境サポート、留学生キャンパスライフ、留学生ASOの就職サポート
(7) 学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援、各種支援制度
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書
(9) 学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	留学生入学案内、グローバル教育
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://asojuku.ac.jp/abkc/>
公表時期: 令和6年7月31日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程CGデザイン科) 令和6年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
								講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		CG概論	Webデザイン制作のための基本的な知識の習得 Webデザイナー検定の受験対策。	1 後	46	○	○			○		○		
2	○		色彩演習Ⅰ	色彩についての基礎知識を演習を通じて学習する。 色彩検定3級の受験対策。	1 前	46	○		○		○		○		
3	○		色彩演習Ⅱ	色彩についての基礎知識を演習を通じて学習する。 色彩検定2級の受験対策。	2 前	46	○		○		○		○		
4	○		デザイン基礎 演習	デザインについての基本知識について学習する。 主にレタリング検定の受験対策。	1 前	46	○		○		○		○		
5	○		デザイン概論	美術・デザインについての知識、歴史などについて学習する。	2 後	16	○	○			○		○		
6	○		デッサンA	石膏像、静物などを鉛筆デッサンし、正確な描写力と観察力を養う。	1 前	46	○		○		○			○	
7	○		デッサンB	石膏像、静物などを鉛筆デッサンし、正確な描写力と観察力を養う。	1 後	46	○		○		○			○	
8	○		表現技法Ⅰ	主としてアナログ的な表現手法を通じ、課題制作を行う。	1 後	30	○		○		○			○	
9	○		表現技法Ⅱ-A	表現技法Ⅰを基本としクリエイティブな表現力を養うための課題制作を行う。	2 前	30	○		○		○			○	
10	○		表現技法Ⅱ-B	表現技法Ⅰを基本としクリエイティブな表現力を養うための課題制作を行う。	2 後	30	○		○		○			○	
11	○		CG演習Ⅰ-A	デザイン制作に不可欠なグラフィック用アプリケーションの知識と技術の基本を学習する。	1 前	60	○		○		○		○		
12	○		CG演習Ⅰ-B	デザイン制作に不可欠なグラフィック用アプリケーションの知識と技術の基本を学習する。	1 後	46	○		○		○		○		
13	○		CG演習Ⅱ-A	グラフィック用アプリケーションの基礎技術を応用し、課題制作を通じて実践していく。	2 前	46	○		○		○		○		

(文化教養専門課程CGデザイン科) 令和6年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
14	○			CG演習Ⅱ-B	グラフィック用アプリケーションの基礎技術を応用し、課題制作を通じて実践していく。	2後	46	○	○		○		○			
15	○			DTP演習Ⅰ-A	DTPに必要なアプリケーションの知識と技術の基本を学習する。	1前	46	○	○		○		○			
16	○			DTP演習Ⅰ-B	DTPに必要なアプリケーションの知識と技術の基本を学習する。	1後	46	○	○		○		○			
17	○			DTP演習Ⅱ-A	1年次の技術と知識を応用しDTPに関わる課題制作を行う。	2前	16	○	○		○		○			
18	○			DTP演習Ⅱ-B	1年次の技術と知識を応用しDTPに関わる課題制作を行う。	2後	16	○	○		○		○			
19	○			デザインワーク演習Ⅰ	デザイン制作の現場に即した、実践的な知識、技術を学び、課題制作を行う。	1後	30	○	○		○				○	
20	○			デザインワーク演習Ⅱ-A	1年次の技術と知識を応用し、より実践的な課題制作を行う。	2前	30	○	○		○				○	
21	○			デザインワーク演習Ⅱ-B	1年次の技術と知識を応用し、より実践的な課題制作を行う。	2後	30	○	○		○				○	
22	○			Web基礎演習-A	Webの基本言語である、HTML、CSSの習得	1前	46	○	○		○		○			
23	○			Web基礎演習-B	Webの基本言語である、HTML、CSSの習得	1後	46	○	○		○		○			
24	○			Web応用演習-A	CMSの基本技術習得からポートフォリオサイト制作。およびWebクリエイター能力認定試験受験のための対策講座	2前	46	○	○		○				○	
25	○			Web応用演習-B	CMSの基本技術習得からポートフォリオサイト制作。およびWebクリエイター能力認定試験受験のための対策講座	2後	46	○	○		○				○	
26	○			CG応用演習(映像表現)Ⅰ	映像表現に必要な基本技術の習得と課題制作、コンテスト出品など。	1後	16	○	○		○				○	
27	○			CG応用演習(映像表現)Ⅱ-A	基本技術を応用しより完成度の高い作品制作を目指す。課題制作、コンテスト出品など。	2前	16	○	○		○				○	

(文化教養専門課程CGデザイン科) 令和6年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
28	○			CG 応用 演習 (映像表現) II-B	基本技術を応用しより完成度の高い作品制作を目指す。課題制作、コンテスト出品など。	2後	16	○	○		○				○	
29	○			CG 応用 演習 (デジタル描画) I	フォトショップなどグラフィックソフト、ペンタブレットなどのデジタル機材を使つての描画技法基本テクニック習得。	1後	16	○	○		○				○	
30	○			CG 応用 演習 (デジタル描画) II-A	フォトショップなどグラフィックソフト、ペンタブレットなどのデジタル機材を使つての描画技法基本テクニック習得。	2前	16	○	○		○				○	
31	○			CG 応用 演習 (デジタル描画) II-B	フォトショップなどグラフィックソフト、ペンタブレットなどのデジタル機材を使つての描画技法基本テクニック習得。	2後	16	○	○		○				○	
32	○			デザイン 応用 演習 (イラスト) I	イラスト表現のための基本テクニック習得。課題制作。	1前	16	○	○		○				○	
33	○			デザイン 応用 演習 (イラスト) II-A	イラスト表現のための課題制作。応用表現の課題制作。コンテスト応募	2前	16	○	○		○				○	
34	○			デザイン 応用 演習 (イラスト) II-B	イラスト表現のための課題制作。応用表現の課題制作。コンテスト応募	2後	16	○	○		○				○	
35	○			デザイン 応用 演習 (Webデザイン) II-A	Webデザイン分野について、より実践的な技術を応用し、課題制作を行う。	2前	30	○	○		○				○	
36	○			デザイン 応用 演習 (Webデザイン) II-B	Webデザイン分野について、より実践的な技術を応用し、課題制作を行う。	2後	30	○	○		○				○	
37	○			デザイン 応用 演習 (編集デザイン) II-A	DTPデザイン分野について、より実践的な技術を応用し、課題制作を行う。	2前	30	○	○		○				○	
38	○			デザイン 応用 演習 (編集デザイン) II-B	DTPデザイン分野について、より実践的な技術を応用し、課題制作を行う。	2後	30	○	○		○				○	
39	○			プレゼンテーション基礎演習 A	作品コンテスト応募作品を通じて作品プレゼンテーション技術を習得する。	1前	16	○	○		○				○	○
40	○			プレゼンテーション基礎演習 B	進級制作を通じて作品プレゼンテーション技術を習得する。	1後	16	○	○		○				○	○
41	○			プレゼンテーション応用演習 A	作品コンテスト応募作品を通じて作品プレゼンテーション技術を習得する。	2前	16	○	○		○				○	○

(文化教養専門課程CGデザイン科) 令和6年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
42	○			プレゼンテーション応用演習B	卒業制作を通じて作品プレゼンテーション技術を習得する。	2後	16	○	○		○		○	○		
43	○			デザイン制作演習I	作品コンテストへの応募を中心とした作品制作実習(1年次)	1前	46	○	○		○		○	○		
44	○			デザイン制作演習II	作品コンテストへの応募を中心とした作品制作実習(2年次)	2前	46	○	○		○		○	○		
45	○			進級制作	1年間で習得した知識、技術を応用し、進級作品制作。	1後	76	○	○		○		○	○	○	
46	○			卒業制作	1年間で習得した知識、技術を応用し、進級作品制作。	2後	76	○	○		○		○	○	○	
47	○			文章表現I	就職活動で必要とされる国語力、作文制作力を養う。	1後	16	○	○		○			○		
48	○			文章表現II	国語力、作文制作力に加えてビジネス文書作成術などについて学習する。	2前	16	○	○		○			○		
49	○			GCB I	感謝心と思いやりの教育	1前	16	○	○		○			○		
50	○			GCB II	志の教育	2後	16	○	○		○			○		
51	○			就職実務I	就職活動ガイドブックを活用した就職活動へ向けての基本指導から、より具体的な活動の心得、進め方の指導。求職面接、就職行事での心得を指導する。	1後	30	○	○		○			○		
52	○			就職実務II-A	就職試験対策として、学生への個別就職ガイダンス、面接練習を行う。	2前	16	○	○		○			○		
53	○			就職実務II-B	就職試験対策として、学生への個別就職ガイダンス、面接練習を行う。	2後	16	○	○		○			○		
54	○			教養講座I	就職試験対策してSPI対策、基礎教養講座を行う。	1後	16	○	○		○				○	
55	○			教養講座II	就職試験対策してSPI対策、基礎教養講座の継続、応用。	2前	16	○	○		○				○	

(文化教養専門課程CGデザイン科) 令和6年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
56	○			マナー講座	社会人になるにあたってのマナーの基本を確認する。	2後	16	○	○			○			○	
合計						56	科目	1724			単位時間					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： <ul style="list-style-type: none"> (1) 当該学科の修業年限以上在学していること (2) 学則に定める当該学科所定の全ての科目に対し履修認定を受けていること (3) 卒業基準検定を取得していること (4) 学年の出席率が90%以上であること 以上の要件に該当しない者は、卒業判定会議により判定を行う。	1学年の学期区分	2期
履修方法：学則に定める教育課程に基づき指定された必須科目を全て履修する。	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。